



地域がつくり、未来へつなぐまちづくり

まちづくり基本方針



◆基本方針の位置づけ

- ・ まちづくり基本方針は、まちづくり基本条例第 10 条に基づく、まちづくり施策を総合的に講ずるための基本的な方針であるとともに、21 世紀兵庫長期ビジョン（以下「長期ビジョン」）のまちづくり分野における基本的な方針です。
- ・ 長期ビジョンと同様に、2040 年を想定年次として「めざすべきまちの将来像」を提示し、2020 年を目標年次とした取組の方向性を示しています。

◆基本コンセプト

地域がつくり、未来へつなぐまちづくり

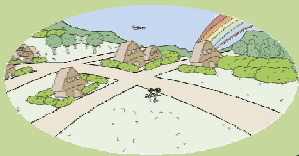
これからのまちづくりは地域が主役です。県民一人ひとりが主役となって、4つの地域のもとで、4つのテーマを掲げまちづくりに取り組むことで、持続可能な地域をつくり、「創造と共生の舞台・兵庫」の実現を共にめざしましょう。

◆4つの地域

多様な地域を持つ兵庫県の特性を踏まえ、県全体を4つの地域でとらえます。

多自然地域の集落群

多自然地域の集落とその周辺



地方都市

地方都市の中心市街地とその周辺



郊外住宅地

高度成長期以降に開発された郊外住宅地など



都市中心部

瀬戸内臨海部に連たんする既成市街地



地域
主役

持続
可能

◆4つのテーマ

今後のまちづくりにおいて重要になる4つのテーマに取り組みます。

安全・安心のまちづくり

- 災害に備えたまちの機能の確保と迅速な復興対策
- 誰もが安心して暮らせる環境整備

環境と共生するまちづくり

- 住宅やまちの低炭素化、エネルギーの自給
- 自然環境や生物多様性の保全再生などによる環境との共生

魅力と活力あるまちづくり

- 地域の宝や個性の再発見・発信による魅力づくり
- 都市機能の集約と土地利用調整による地域活力の増進

自立と連携のまちづくり

- 担い手育成やコミュニティ活性化による地域の自主・自立
- 人と人・地域と地域の交流や連携の促進

◆2040 年を想定した「懸念される事態」と「めざすべき将来像」

4つの地域における「懸念される事態」と、それぞれの地域が有する資源や個性、魅力を活用した「めざすべき将来像」を提示し、問題意識と未来への希望を県民のみなさまと共有します。

<p>多自然地域の集落群</p> <p>＜懸念される事態＞ 集落の荒廃</p> <p>＜めざすべき将来像＞ つながりが育む豊かなふるさと</p>	<p>地方都市</p> <p>＜懸念される事態＞ 拠点機能の低下</p> <p>＜めざすべき将来像＞ 個性あふれる地域の核</p>	<p>郊外住宅地</p> <p>＜懸念される事態＞ 生活機能の劣化</p> <p>＜めざすべき将来像＞ 住民主体の成熟したまち</p>	<p>都市中心部</p> <p>＜懸念される事態＞ 活力の低下</p> <p>＜めざすべき将来像＞ 競い輝く連たん都市</p>
---	--	--	--

◆2020 年に向けた重点プロジェクト

基本コンセプトのもと、めざすべき将来像の実現のために、住民・団体・事業者、市町、県が連携し、重点的に取り組むべきまちづくりの方向性を、2020 年に向けた「重点プロジェクト」として提示しました。

<p>＜多自然地域の集落群＞ 「絆」による暮らし再生プロジェクト</p> <p>「つながり」で築く安全と安心 地域のつながりを生かした災害対策や、暮らしの安心確保に取り組みます。</p> <p>都市へ「つなぐ」自然、食料、エネルギー 自然環境を保全し、遊休地を活かした創エネの推進等を進めます。</p> <p>地域の魅力が「つなげる」しごと 地域の魅力を発見・発信し、「しごと」へつなげる取組を中心に進めます。</p> <p>世代を超えて「つながる」むらへ 地域の担い手の育成や、集落と集落、集落と都市等の連携を進めます。</p>	<p>＜地方都市＞ 個性あふれる地方の拠点創造プロジェクト</p> <p>地域の安全・安心の核となるまちへ 周辺地域の災害対策拠点・安心の拠点をつくりまします。</p> <p>個性が集まり賑わうまちへ 都市機能の集約により、賑わいのあるまちを、地域の魅力を生かす「しごと」により、地域の活力増進をめざします。</p> <p>エネルギーや食の地産地消で自立したまちへ 地域の自然や気候を活かし、エネルギーも自立したまちづくりをめざします。</p> <p>さまざまな人が交流する結節点へ 空き空間を活用した交流促進や周辺地域との連携環境を整備し、広域のまちづくりを進めます。</p>
<p>＜郊外住宅地＞ 住民主体のニュータウン再生プロジェクト</p> <p>住民がつくる安全で安心な「まち」へ 地域の防災組織の強化等により高齢者等の暮らしの安心確保をめざします。</p> <p>ゆとりある空間で環境最先端の「まち」へ 低炭素なまちづくりや創エネ、自然との共生に向けたモデル的取組を進めます。</p> <p>魅力としごとを生み出す「まち」へ 空き地・空き家等を活用した住民による新たなサービスや「しごと」の創出をめざします。</p> <p>多様な人材が活躍できる「まち」へ 多世代が居住できる住環境づくりや、高齢者の経験や能力を活かした担い手育成を進めます。</p>	<p>＜都市中心部＞ ひょうご都市ブランド構築プロジェクト</p> <p>安全・安心の拠点都市へ 大規模災害に備えたシステムや、災害や交通、防犯など、ソフト・ハードにわたる総合的な安全安心システムをつくりまします。</p> <p>個性が輝く集約型都市へ 既存商店街を再生するとともに、先端的な都市機能や個性あふれる都市ブランドの構築を進めます。</p> <p>多様なエネルギー源を持つ低炭素都市へ 建築物や都市の低炭素化や都市緑化を進め、多様なエネルギー源を持つ都市をめざします。</p> <p>多選択・多参画型都市へ 多様な人材が活躍できる環境整備や、ひょうごの要としての機能充実を図ります。</p>

3～8 ページでは、4つの地域それぞれの「めざすべき将来像」を生活の一場面として切り出し、物語風に描いています。

多自然地域の集落群

～めざすべき将来像：つながりが育む豊かなふるさと～

豊かな自然を有する多自然地域は、県民の憩いの場、食料やエネルギーの源となっている。世帯が減少し「村移り」を選択した集落もあるが、地域の伝統や誇り、愛着が親から子へ受け継がれ、地域を愛する都市住民との交流により新たな絆が生まれ、新たな取組は地域で歓迎され、都市からの来訪者や移住者と集落住民の交流が生み出す新たな「しごと」により、子世代が親世代と共に地域で暮らす社会を再現している。



「つながり」で築く安全・安心

- ・地域の防災・減災対策が向上している
- ・誰もが安心して暮らしている

豊かな自然に恵まれたこの村に、博一さん(39)、京子さん(36)夫妻が移り住んだのは 10 年前。集落の半数は移住組だが、みな周囲に溶け込み、新たな絆が生まれている。先日の寄り合いでは、災害時の被害想定や避難場所、一人暮らしの老人の避難誘導方法等について話し合うとともに、今後の地域の生活を支えるため、地域で見守り事業やコミュニティバス事業に取り組むことも決まった。

都市へ「つなぐ」自然、食料、エネルギー

- ・都市へのエネルギーの供給源となっている
- ・自然環境や農地が次世代へ継承されている

この村は集落ぐるみでの地域経営が特徴で、博一さんの発案で設置された小水力発電事業は、村の貴重な収益源になっている。また、パートナーシップ協定を結んでいる都会の自治会へ生産物の直送を行うとともに、週末には「自然体験ひろば」が開催され、区長の憲之さん(70)が都会の子供たちに地域の動植物や農産物の紹介を行っている。



地域の魅力が「つなげる」しごと

- ・地域の個性と豊かな住環境が大切にされている
- ・地域資源が新たな地域の魅力や「しごと」を生んでいる

集落の中でひときわ目立つ、地域の歴史・文化の顔とも言える古民家は、集落が経営している有機野菜を使った農家民宿レストランだ。以前大阪の旅行社に勤務していた、憲之さんの娘の昌子さん(29)がマネジャーに就任している。彼女は、その知識やノウハウを活用し、農家民宿経営と併せた観光事業で、村に多くの雇用の場を生み出した。



世代を超えて「つながる」むらへ

- ・地域への愛着が次世代へのつながりと新たな担い手を育てている
- ・村移りなどにより集落の暮らしが維持されている

昌子さんは、成人を期に集落を出た仲間ともSNSでつながっており、毎年祭りの時期になると数ヵ月前からネットで当日の役割分担まで決める中心人物だ。集落へ帰ってからは、大阪時代のバンド仲間を加え、祭りを現代風にアレンジして全国的に話題となった。さらに来年は小規模化が進む近隣集落とも連携し、祭りを活用して広域的に観光客を呼び込む構想を発表した。



地方都市

～めざすべき将来像：個性あふれる地域の核～

地域の文化や経済の中心として、災害時の安全や地域エネルギーが確保され、医療や介護、就労、教育、購買等の都市機能が集約されることで、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりが進み、周辺地域や遠方からの交流の結節点となっている。



地域の安全・安心の核となるまちへ

- ・周辺地域の災害対策拠点となっている
- ・地域生活の安心の核となっている

かばん屋3代目の浩之さん(43)は、老朽化が著しい商店街をリニューアルすることが夢だったが、商店会長への就任を機に、市の助成制度を活用し、商店街のバリアフリー化を実現した。また、地区連合会と協働して災害時の避難経路や多目的トイレ等の情報マップづくり、緊急情報連絡システムづくりに取り組み、その活動がこのたび県知事賞として評価された。

エネルギーや食の地産地消で自立したまちへ

- ・地域エネルギーが自立している
- ・地域の自然や気候を生かしたまちづくりが進んでいる

弟の静司さん(40)は最近駅前のマンションに引っ越した。ここは母親の垂紀さん(72)の通院に便利で、駅前にもかかわらず緑とゆとりにあふれたまちだ。この地域は町工場の撤退が増えたため、5年前に都市計画を変更し、都市機能を集積する市街地開発事業を実施した地域だ。その結果、生活利便施設や医療、介護に加え、地産地消のレストランなどが集まり、周辺地域の中心となっている。



個性が集まり賑わうまちへ

- ・地域の個性が発見・発信され、新たな「しごと」を生んでいる
- ・まちなかの利便性が向上し、賑わいが生まれている

妻の直子さん(35)は海外企業のコールセンターに勤めている。都市機能集積により生まれた空間に昨年立地したのだ。職場から自宅に向かう「柳街道」と呼ばれる、直子さんお気に入りの川沿いの道路には厳しい景観ルールが定められ、多数の観光客を呼び込み地域の誇りとなっている。仕事が終わると柳街道を歩き、娘(4)を保育園に迎えに行くのが直子さんの日課だ。

さまざまな人が交流する結節点へ

- ・内外の多様な人々による交流が進んでいる
- ・広域交通と地域交通の結節点となっている
- ・広域的なまちづくりが進んでいる

叔父の靖浩さん(70)は、車で30分の集落に住み、NPOで農業体験を主催している。昨年から持病が悪化したため、コミュニティバスに乗り駅前の病院に通院しているが、帰りには田舎暮らし情報センターに顔を出し、若者とおしゃべりするのが楽しみだ。空き店舗を活用したセンターは、周辺集落の情報が集まる拠点として賑わっており、今日は来月開催する18集落合同収穫祭の関係者で賑わっていた。



郊外住宅地

～めざすべき将来像：住民主体の成熟したまち～

計画された都市基盤による高い安全・安心と、まちの「ゆとり」ある良好な住環境を併せ持ったニュータウンは、住民が主体となり、様々なコミュニティビジネスがまちの機能を補完し、ベッドタウンから、多世代が連携する普通のまちに生まれ変わっている。また、疎住化が進んだ郊外住宅地の一部は、地域と行政の協働により緑地化され、住民の憩いの場となっている。



住民がつくる安全で安心な「まち」へ

- ・地域の防災・減災対策が向上している
- ・高齢者等が安心して暮らせる環境になっている

3歳の時からここで暮らしている康雄さん(68)の自宅は10年前に耐震補強済みだ。元消防署員の経歴から、防災グループのリーダーでもある康雄さんは、今日も地域の循環バスに乗って、最近転入してきた新婚夫婦へまちの防災計画の説明に赴く。建て替えが終わったばかりのセンター施設には、介護付き住宅と福祉施設も併設され、康雄さんも将来の入居について検討中だ。

ゆとりある空間で環境最先端の「まち」へ

- ・住宅・都市の低炭素化の先進地域になっている
- ・自然との共生の先進地域になっている

妻の智子さん(61)は環境活動に熱心で、自宅の改修にあわせて太陽光発電設備や蓄電設備、雨水貯留タンクを設置したのも彼女の主張だ。さらに、地域でのカーシェアリンググループに入り、康雄さんの愛車も手放すことになった。隣家の土地を共同購入し運営した菜園は地域で評判になり、春に孫の豊くん(10)が植えたスイカももうすぐ収穫時期だ。



魅力としごとを生み出す「まち」へ

- ・地域内に新たなサービスや「しごと」が生まれている
- ・まちの景観や空き空間は地域により管理・活用されている

幼なじみの義明さん(68)は地域ファンドの助成を活用し、センターの空き店舗で不要家具の補修事業を始めた。建築士でもある義明さんは、変化する団地の暮らしや景観を発信するWEBサイトを運営し、さらに宅地の細分化を防止する地区計画の策定にも取り組んできた。こうした活動はネットで評判になり、仲間も増え、デザインコードづくりに活動が広がった。

多様な人材が活躍できる「まち」へ

- ・多世代による多様なコミュニティが実現している
- ・高齢者が活躍し、地域をマネジメントしている

義明さんの活動には多くの仲間が集まり、法人化の準備を進めている。法人には近隣の大学生も参加し、家具だけではなく、大学生や退職者等と協働した住宅改修事業、戸建てに住む高齢単身世帯の庭の管理事業等も手がける計画だ。義明さんは最近とても忙しく、康雄さんは少し寂しい。今度、センターの居酒屋で一杯やろうと約束しているのだが…。



都市中心部

～めざすべき将来像：競い輝く連たん都市～

連たんするまちの個性が輝き、産業・商業が集積する利便性の高い快適な空間の魅力にひかれた多様な人材が集まる都市中心部は、賑わいと活力のあふれるまちが形成されている。災害時の対策がさらに充実し、誰もがあらゆるモノやサービス・情報を必要なときに入手でき、誰もが安心して健康で快適に暮らし、集い、働くことができている。



安全・安心の拠点都市へ

- ・災害に強い都市構造となっている
- ・都市全体が安心の拠点となっている

昭武さん(39)と夏姫さん(32)は、6月の結婚を控え、新居となるマンションを購入した。このマンションは免震構造で津波時の避難ビルにも指定されており、ライフラインの途絶に備えた1週間の備蓄もある。今日は、まちづくり協議会のリーダー勝さん(55)から、今後の災害に備えた防災体制、大規模災害時の復興まちづくり計画等の説明を受けた。

多様なエネルギー源を持つ低炭素都市へ

- ・エネルギー源の多様化・分散化が進んでいる
- ・低炭素なまちづくりが進んでいる
- ・緑あふれる都市空間となっている

昭武さんたちが購入するマンションの外壁は発電パネルと一体化し、地域のガスコージェネ施設からの給電とあわせ通常時のエネルギーを調達し、災害時でも蓄電設備とあわせて最低限のエネルギーが確保される。また、中間階は風が通る緑化階となっており、近隣住民や地域の緑をつたう鳥や昆虫の憩いの場にもなっている。緑地の管理は隣室の典子さん(29)が運営するNPOが受託している。



個性が輝く集約型都市へ

- ・歴史や生活文化が都市の魅力を高めている
- ・多様な都市機能の集積・再編が新たな活力を生み出している

この地域では製造業に代わり、様々な先端サービス産業が生まれているが、多様な文化を寛容に受け入れた地域の歴史がその背景にある、というのが阪神文化研究を趣味とする昭武さんの持論だ。ITエンジニアの昭武さんが夏姫さんと知り合ったのは、服飾デザイナーの彼女が計画する店舗のシステム開発を担当したのが縁だ。彼の議論が夏姫さんの仕事にヒントを与えたことが大きかったのかもしれない。



多選択・多参画型都市へ

- ・多様な住まい方・空間による多様な交流が実現している
- ・地域間の交流と連携が進んでいる
- ・広域的なまちづくりが進んでいる

この地域では、地域ぐるみで但馬の集落との交流が進み、夫妻は定期的に休暇を取り農作業を行っている。仕事を通じ世界中を移動する2人は、但馬の田園風景が世界で最も美しいと断言する。近隣の複合ビルは高齢者向けコレクティブハウジングに改修されることも多くなり、2人は最近お互いの祖父母である知之さん(84)夫妻と悦子さん(88)夫妻を呼び寄せ、一緒に生活してもらおうアイデアに熱中している。



◆各主体の役割

- ・ 成熟社会における「まちづくり」は、住民・団体・事業者、市町、県の相互の理解、信頼及び協働のもとに行われなければなりません。つまり、「まちづくり」はそれぞれが対等の立場で取り組むべきものです。
- ・ このような理念に基づく『まちづくり基本方針』は、「まちづくり」に関する県の基本的な考え方を、住民・団体・事業者や市町にわかりやすく提示することで、めざすべき将来像等を共有しながら、それぞれの役割のなかで、地域の「まちづくり」が展開されることを目指すものです。
- ・ この基本方針は、住民・団体や事業者や市町の取組を拘束するものではありませんが、みなさまにはぜひこの趣旨を理解していただき、共通の理解をもって共に「まちづくり」に取り組んでいただきたいと考えています。

住民・団体・事業者

まちづくりの主役

地域社会の一員としての責任感を持って、めざすべき将来を見据えながら、まちづくり活動に積極的に参加することが期待されます。

市町

まちづくりのパートナー

地域を熟知し住民等に最も身近なパートナーとして、地域と一体となって、計画策定や具体的なまちづくり活動への支援を行います。

県

まちづくりのサポーター

広域的な観点から、地域のまちづくり活動や個性的な取組が促進されるよう、住民・団体・事業者や市町を積極的に応援します。

◆まちづくり資料集の整備

「まちづくり事例集」・「まちづくり施策集」

住民・団体・事業者のみなさまが地域でまちづくりを進める際、参考となる県内の取組事例や活用できる施策をまとめています。

「まちづくり指標集」

各主体が本方針でめざすまちづくりの実現状況を確認できるよう、指標(例)を整理しています。

◆優れた取組の顕彰

「人間サイズのまちづくり賞」

県では毎年、成熟社会にふさわしいまちづくりに貢献している優れた建築物や顕著な功績のあった活動団体等を顕彰しています。みなさまの身近にある優れた建築物、まちづくり活動等をご推薦ください（自薦・他薦を問いません）。

まちづくり基本方針の本編やまちづくり資料集、人間サイズのまちづくり賞につきましては、以下の兵庫県ホームページをご覧ください！

http://web.pref.hyogo.lg.jp/wd20/wd20_000000002.html

ひょうごまちづくり基本方針

検索



兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課

〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1

TEL: 078-362-4324

E-mail: kendo_toshi@pref.hyogo.lg.jp

平成 25 年 3 月 発行

24 土 P2-123A4